

## 地域林業の新たな担い手を支援

## 1 テーマの趣旨・目的

東栄町は、愛知県東端の山間地域に位置し、総面積の7割以上をスギ・ヒノキの人工林が占めている。ここ東栄町に2022年4月、新たな民間林業経営体、株式会社春風（以下「春風」）が生まれた。

社長の清川氏は、林業を「稼げる」魅力のある職業にしたいという思いのもと、東栄町を中心に素材生産に取り組んでいる。町役場もまた、森林経営管理制度等、地域林業の担い手として春風に期待を寄せている。

一方で、春風は設立から間もないため、期待に応じていくためには経営基盤の強化が鍵となる。そこで、林業普及指導員が月1回以上社長と打ち合わせを重ね、各方面にわたる指導を行った。

## 2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

経営体としての体制を整えるため「目標及び計画の設定」に、施業技術向上のため「路網の現地検討」及び「主伐再造林実施に対する指導」に、現場の状況を精度よく把握するため「現場管理手法の改善」に取り組んだ。

## (1) 目標及び計画の設定

## ア 現状

春風は設立当初、直接雇用の社員がおらず、すべて借りた機械で施業を行っていた。さらには毎年の事業量が不安定であり、経営基盤強化の第一歩として、まずは経営体としての目標を定め、計画的に事業をすすめる必要があった。

そこで、林業普及指導員から社長に呼びかけ、目標及び計画について腰を据えて考える機会を設けた。

## イ 取組内容

まず、春風の木材生産量等の現状を整理したうえで、「長期的視点で山づくりに取り組みたい」「主伐を事業の柱にしたい」等、社長が目指す将来像を実現す

るための取組目標について、社長から意見を引き出した。

さらに、各目標の実現に必要な人材確保や機械の導入等の措置を検討し、年度ごとの計画に落とし込んだ。

なお、目標及び計画は「改善計画書」の形に整理し、2024年10月に認定事業主となるための申請を行った。

表1 改善計画書における春風の目標（抜粋）

	現状(2024)	→	5年後(2029)
現場社員	4人	→	6人
保有機械	2台 (グループ、 フォワーダ)	→	4台 (グループ、フォワーダ、 プロセッサ、トラック)
木材生産量	2,923m <sup>3</sup>	→	3,800m <sup>3</sup>

## ウ 成果

認定事業主となったことで、春風は各種助成を受けられるようになり、現在は緑の雇用事業を活用して社員のキャリアアップと定着につなげている。さらに、2025年3月には意欲と能力のある林業経営体にも登録された。

## エ 課題

計画の達成状況を毎年度春風と林業普及指導員で振り返り、良かった点や課題等を整理し、取組手法を改善していく。

## (2) 路網の現地検討

## ア 現状

春風の森林経営計画区域には、搬出間伐に適しているものの、作業道が急勾配なうえに蛇腹状の線形であり、木材の運搬が困難な林分があった。

## イ 取組内容

春風、所有者及び林業普及指導員で路網改修について現地検討を行ったが、該当路線は改修しても通常のトラックでは通れないことを改めて確認した。そこで、別路線からの迂回について踏査を行ったところ、こち

らは急勾配で荒れやすい土質であるものの、横断溝の設置や簡易な舗装を行ったうえで継続的に管理することで通行可能であるとの結論に至った。

#### ウ 成果

春風は、迂回路を活用する形で森林経営計画の対象を広げ、更新する予定である。

#### エ 課題

蛇腹状の路線についても、四駆の2t車で通行できないか、再検討予定である。

### (3) 主伐再造林実施に対する指導

#### ア 現状

春風の施業の中心は搬出間伐であるが、社長は施業効率化と木材生産量増加のため、主伐にも挑戦したいと考えていた。林業普及指導員としても、人工林の更新が地域全体の課題となっていることから、主伐再造林への支援を行った。

#### イ 取組内容

伐採前に、社長と一緒に現地で林況を確認し、適用可能な事業の助言と、事務手続の指導を行った。さらに伐採後には、春風の主伐事業地を獣害対策研修（森林・林業技術センター開催）の会場として提供した。

#### ウ 成果

現地研修では、シカ等の侵入を確実に防ぐ柵の設置方法を学んだほか、集材・地拵えの仕方によって獣害対策のしやすさが違うことについても気づきがあり、今後の施業方法を考える貴重な機会となった。

2024年度には、2か所 1.64ha で主伐再造林を行うことができた。

#### エ 課題

継続的な主伐事業地の確保と、確実な保育管理の実施を支援していく。



## 写真1 獣害対策研修

### (4) 現場管理手法の改善

#### ア 現状

春風は社長の記憶により現場の進捗や年間の施業予定を管理していたが、年を追うごとに現場の数が増え、管理が困難になりつつあった。

#### イ 取組内容

現場の予定と進捗を記録し、計画的に施業を進められるよう、簡易な進捗管理表をエクセルで作成して春風に提供した。さらに、定期的な記録が習慣づけられるよう、毎月進捗管理表を使って社長に現場状況を聞き取った。

また、日報アプリの更新を検討していたため、春風の現場管理方法に合ったアプリを選べるよう、各アプリの「機能」「操作の容易さ」「料金」等を比較した表を作成して、示した。

#### ウ 成果

進捗管理表により、予定どおり現場が動いているか、無理のない年間計画が立てられているか、視覚的に把握できるようになった。

現在、春風は安価で必要最小限の機能を備えた日報アプリを導入し、社員全員が利用している。

#### エ 課題

計画と実績の記録を積み重ねることで、進捗管理表の精度を高めていく。

また、日報アプリからの出力をもとにした帳票作成の簡略化に取り組む。

## 3 今後取組むべき内容

進捗管理表及び日報アプリの導入により、現場の生産が記録できる体制が整ったため、社長が課題と考えている生産性の向上に取り組むたい。

具体的には、日報アプリで生産量を記録し、目標と実績の差を明確にすることで、社長・社員間で必要な対策を検討できる環境づくりを行う。

特に、林業普及指導員からは、第三者の目線で作業状況を観察して気づいた点を伝えるとともに、定期的に社長と社員が意見交換する場を設ける。

取組を通じて、春風には目標達成だけでなく、収益が改善されて「稼げる林業」を実現すること、さらには東

栄町の地域林業の担い手となることを期待したい。